

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年7月18日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872000948		
法人名	株式会社 キュート		
事業所名	グループホーム たんぽぽ	ユニット名	1階
所在地	〒305-0861 茨城県つくば市谷田部3393-1		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0872000948&amp;SCD=320&amp;PCD=08">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0872000948&amp;SCD=320&amp;PCD=08</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年12月21日	評価確定日	平成24年7月2日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>3.11の震災では、幸運にも電気や水道が止まることもなく、館内もほとんど被害がなかったが、災害に備えての訓練の見直しや備蓄を強化することが出来た。また、普段からの地域とのつながりの大切さを再確認し、施設が地域に果たす役割を見直すいい機会となった。また、日常の生活では、「思いやりと笑顔・一人ひとりの生き方を大切にする・地域の人達の交流に参加する」を理念とし、利用者が穏やかにその人らしい生活ができるよう全職員で実践している。また、個人が興味を持っているものを尊重し、書道、園芸、製作、合唱、そろばん、オセロなどの活動を行い、発表の場を設けている。今年施設で作った石釜とバーベキュー台を利用して地域の方と交流会を行う予定になっており、利用者もとても楽しみにしている。今後もこの活動が継続しさらに交流が深まっていくようにしていきたい。館内で飼っている犬は、5年目になり、利用者にとっては家族のような存在になっている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>代表者や管理者は利用者本位のサービスの提供を第一に考え、職員は利用者を人生の先輩として尊敬し学ぶべき存在として捉え、「介護する側、される側」という一方的な関係ではなく、互いに支え合う関係を築いている。</p> <p>利用者が職員と一緒に作成した季節の装飾品が居間の壁面や利用者一人ひとりの居室の入口に飾られており、家庭的で温もりのある生活空間となっている。</p> <p>月毎にチェック表を作成して、大掃除をしたり車いすなど福祉用具の点検整備をするなど、清潔や安全に配慮している。</p> <p>年4回発行している広報誌やインターネット上で開設しているホームページで利用者の事業所内での生活の様子を伝えるとともに、認知症介護についての情報を発信し、グループホームが理解されるよう努めている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人達の交流に参加します」の理念を掲げ、地域で行われる缶拾いに参加したり、たんぼぼ内の行事に地域の人々が参加できるよう案内し、協力して頂いている。	「思いやりと笑顔、自立性と個性の尊重、地域との交流」を謳った理念を作成し、玄関や各ユニットの居間、事務室に掲示するとともに、パンフレットに記載している。 職員は掲示している理念を確認しながら、日常の支援が理念に基づくものかどうか常に再確認している。 申し送り時や職員会議などで理念を確認して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧を回してもらっている。散歩に出掛けた時は、挨拶を交わしたり、野菜や花を頂くこともある。散歩しながら道路沿いのゴミ拾いを行っている。谷田部地区の夏祭りには、山車や神輿の休憩所として、駐車場を開放した。区会や新年会などにも町内の1住人として参加している。11/6には、施設で作った石釜とバーベキュー台で地域の方たちとバーベキューを行う予定になっている。	事業所は自治会に加入しており、役員を務めたり職員が清掃活動に参加している。 利用者は散歩時に空き缶などのごみ拾いをしているほか、敬老会や祭りなどの地域行事に参加している。 フラダンスや詩吟、弦楽四重奏、太鼓演奏などのボランティアを受け入れて地域との交流に努めているほか、事業所の納涼祭に地域の人々を招待したり、事業所の庭に設けた石窯やバーベキュー台を開放するなど、事業所自体が地域の一員として受け入れられるように努めている。 代表者は介護や認知症についての情報を事業所から発信することが事業所への理解につながると考え、広報誌の配布や認知症に関する相談の受け入れなどを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たんぼぼ通信の中に、認知症に関する情報や、実践をもとにしたコラムなども掲載している。通信は、玄関入り口に置き、来客者が自由に読んだり、持ち帰ることが出来るようになっている。また、区会で町内の方に配ったり、隣の床屋さんに置いてもらい、地域の方の目に触れるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見を尊重し、サービスの向上につながるよう検討する準備があるが、今年はその場面はなかった。年度初めには昨年の事業報告と今年度の活動予定を報告している。	運営推進会議は3ヶ月に1回開催しているが、毎回市の職員の参加を得るまでには至っていない。 会議では利用者の生活の様子や事業所の運営状況の報告などを行っているものの、欠席者が多く活発に意見交換を行うまでには至っていない。	運営推進会議に市職員や地域住民、家族等が毎回出席できるよう日程調整などの工夫を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での関わりのほかにも、高齢福祉課担当職員と連携をとりながら、協力関係を築いている。	代表者は「分からないことは聞いた方が早い」と考え、市の担当課を頻りに訪問し、助言を得たり情報交換をしながらコミュニケーションを図り協力関係を築いている。 毎月市役所内で開催される地域密着型サービス連絡会では市内の事業所と市担当者で話し合い、空き情報の連絡や意見交換をして良好な人間関係づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、つねに意識できるように、トイレの壁に貼っている。施錠に関しては、2階、3階は入り口のすぐ近くに階段があるため、安全を考慮し、施錠をしているが、利用者の希望があれば、すぐに開錠している。	契約書に身体拘束や行動制限を行わないことを明記し、事業所内に「身体拘束のない介護」のポスターを掲示したり勉強会を開いて職員に意識付けをしている。 全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解し身体拘束をしないケアを心がけているが、全職員で話し合い緊急やむを得ないと判断した場合に限り家族等に書面で同意を得たうえで身体拘束を行う場合もある。 身体拘束をする場合の同意書、経過観察記録、検討記録等の書類一式を整備している。 玄関はチャイムで対応し、2階と3階の入り口は安全を考慮して家族等の了承を得たうえで施錠しているが、利用者の希望があればいつでも解錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修の案内をし、研修を受けた職員は研修報告をし、職員間で情報を共有している。職員は虐待をしないという共通認識を再確認し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加した者は、研修を報告し職員間で学びを深め、支援が必要になった時すみやかに実践できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと説明し、理解していただけるように心がけている。利用者や家族に不安や疑問がないか尋ね、気兼ねなく話せるような配慮をしている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、自由に記入できるように準備を整えている。家族の面会があったとき、ケアプラン送付時などにも、意見や要望がないか確認している。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くよう努めているほか、玄関に「みんなの声」と書かれた用紙を置いて意見等の収集に努めている。 重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に掲示している。 出た意見等は全職員で話し合い改善に取り組むなど、運営に反映させている。 事業所にはAEDが設置されているが、「みんなの声」であがった意見を反映させたものである。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案、相談などがあれば随時聞き、内容について検討し、反映させている。	月1回代表者や管理者が参加する全体会議で職員一人ひとりに意見や提案を尋ねているが、そこで話し難い場合は別の機会にユニットリーダーが職員の意見を聞いてまとめ、代表者や管理者が参加するリーダー会議で協議している。 事務室内にも「みんなの声」の用紙と投書箱が置かれ、出た意見等は利用者の支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時で仕事を終わられる環境を作っている。その中で、職員の努力、実績、勤務態度を把握し、やりがいが持てるように責任をもってもらいそれに見合った給与を段階的に上げている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職員の目に触れるところに掲示し自主的に研修にいけるように環境を整えたり、個々の職員に合った研修を勧めている。又、施設内でも、認知症の理解に関する研修を行いほとんどの職員が参加できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会を通じた交流や勉強会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の話に耳を傾けている。自分の思いを積極的に伝えられない利用者とは、話しやすい雰囲気作りから始め、本人の様子や会話の中から、困りごと、不安、要望などをみつけている。本人が安心できるよう関わり信頼関係が築けるよう努めている。その時の表情、様子、変化を観察し記録に残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーの配慮と、気がねなくゆっくり話ができるよう個室で話を聞くようにしている。家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、必要な支援について話し合い、健康に関すること、衣食住、意欲や気持ちに関することなど多方面からアセスメントし、適切なサービスが速やかに行えるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と同じ目線に立ち、出来ることを共に行っている。家庭的な生活が送れるよう、本人に合わせた活動（調理、洗濯物たたみ、散歩、買い物など）を取り入れながら関わっている。利用者から、生活の知恵や家事のアドバイスをもたらえるような関わりを意識的にするようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランに家族の役割を援助内容として掲げている。面会やイベントの参加では、家族で過ごす時間を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。職員は利用者の日々の様子を家族に伝え、家族に出来ることを共に考えることもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連絡をとりたいとの希望がある時は、電話で話が出来よう支援している。また、家族や知人などが面会に来やすい雰囲気を作心がけ、入所前の生活の維持が出来よう心がけている。年賀状などの季節の手紙を出せるように支援している。	職員は日常の買い物に利用者と一緒に出かけたり、選挙投票や馴染みの美容室へ付き添っているほか、家族等の協力を得て親戚の集まりや墓参りに行けるよう支援をしたり、手紙の作成や電話の取り次ぎをして、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士には、活動を通じて、関わりを深めている。状況に合わせて、職員は、見守りや一緒に関わったりしている。また、ホールの座席も、利用者同士の関係を把握し、お互いが心地よく過ごせるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった利用者に対しては、これまでの生活が継続できるようホームでの生活の様子やケアの工夫など必要な情報を伝え、経過を見守っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握は、その方の言葉だけでなく、表情や、行動からの観察も合わせて行い、その情報は職員間で共有し、利用者にとってより良い方法を検討している。	職員は利用者の生活歴を把握したうえで、日常の会話や表情、しぐさなどから意思疎通の困難な利用者も含めて、利用者の思いや意向の把握に努めている。 体操や習字、ちぎり絵、季節に応じた装飾品作りなど、利用者がやりたい時にやりたいことができるよう支援しているほか、台所仕事や洗濯物たたみ、モップ掛けなど、利用者が役割を担いながら希望にそった暮らしができるように支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人、家族から、聞き取りをしたり、入所前に利用していたサービスに関しては前のケアマネより情報をもらいアセスメントにいかしている。入所後も本人との関わり合いの中から知り得た情報は記録に残しこれまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録に1日の様子、変化、活動などを毎日記録している。大事なこと（心身状態の変化など）は必ず申し送りをし、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の定期的な見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。家族には、面会の折に介護計画への意向を聞いたり、見直した介護計画を確認してもらい、希望や意見があれば意見を取り入れ、現状に即したものを作るようにしている。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れて、6ヶ月毎に見直しているほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直し、家族等の確認を得ている。 職員は日常の支援記録の中でその都度「原因と背景」や「今後の対策」を記載し、介護支援専門員がその情報をもとに1ヶ月毎のモニタリングで援助目標や支援内容に修正を加えるなど、随時現状に即した介護計画を作成している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫をそれぞれ整理して記入できるようにし、職員間で情報を共有して、介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化により、必要な通院の介助をしたり、訪問マッサージを利用したり、出来る限り柔軟に対応している。在宅生活時に使っていたリハビリの施設利用も、本人の強い希望があり、入所後も継続している利用者もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お気に入りのコンビニに買い物に行ったり、花が好きな利用者とは季節の草花を見に散歩に出たり、散歩に出た際に、近所のタバコ屋で飲み物や、飴やおやつ買ったり、隣の床屋で散髪をしたり、身近な地域資源を活用し、本人が望む暮らしが出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医師の受診を支援している。受診に際しては、必要な情報を伝えている。また、緊急時には、直接かかりつけ医に電話で相談したりすることもある。	協力医療機関の訪問診療を支援しているほか、家族等と協力して利用者や家族等が希望するかかりつけ医への通院を支援している。受診結果はその都度家族等へ報告して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないため、利用者がいつもと違う様子ときは、それぞれの主治医に相談し、受診の必要があれば診察の支援をする形をとっている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、お互いに必要な情報交換をして、安心して治療ができ、早期退院につながるように情報を提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について、本人家族と話し合い、家族の意向や、主治医の意見を確認しながら、方針を共有し支援に取り組んでいる。	終末期や看取り介護については、主治医を中心に家族等と事業所側の三者で話し合いの場を設け、その内容を明文化したうえで家族等の確認を得ている。 利用者一人ひとりの事情に応じて対応しているが、事業所の対応指針や対応マニュアルを作成するまでには至っていない。	重度化した場合や終末期ケアに向けた事業所の対応方針を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して確認を得るほか、重度化や終末期に向けた対応マニュアルを作成することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や応急手当の方法を年1回消防署職員の指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に数回の非難訓練を実施し、非常時に対応できるように備えている。その後、非難の様子を振り返り、実践できる方法を話し合った。また、自治会を通して地域の方たちの協力もお願いしている。	今年度は事業所独自の避難訓練を2回実施し訓練時の状況や問題点、改善点等を話し合っ記録に残しているが、消防署立会いの総合訓練や夜間想定避難訓練を実施するまでには至っていない。 東日本大震災時には近隣住民が応援にかけつけるなど、地域との協力体制も徐々に築きつつあるが、避難訓練に地域の人々の参加を得るまでには至っていない。 米や飲料水、乾パン、レトルト食品、缶詰、ヘルメット、おむつ、懐中電灯などを備蓄している。	消防署立会いのもと通報や消火、避難の総合訓練を実施するとともに、夜間を想定した避難訓練を実施することが望まれる。 避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう運営推進会議などで働きかけ、災害時の協力体制を確立していくことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であることを忘れて、言葉遣いや態度には十分気をつけて関わっている。言葉を掛ける時、聞くときは、目線を合わせ、誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。	運営者は、介護する側される側という意識をもたぬよう職員に指導している。 管理者や職員は利用者に対する呼び方や言葉遣いに配慮するとともに、利用者一人ひとりの個性を大切に考えて支援している。 面会簿がノート形式になっていたり、背表紙に利用者名を記してあるファイルを居間に置いているなど、個人情報取り扱いへの配慮に欠けている面がある。 関係機関への個人情報提供や事業所内の写真、名前の掲示、広報誌への掲載など、個人情報の取扱いや利用目的を利用者や家族等に書面で確認するまでには至っていない。	個人情報の取扱いに留意するとともに、利用者や家族等に個人情報の利用目的を提示したうえで確認を得ることを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から思いを気軽に話してもらえるよう会話する時間を作っている。答えやすいように、分かりやすい表現で伝え、本人の答えが聞けるまで待ち、自己決定できるよう関わっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、楽しみのある生活が送れるよう、一緒に考えその日の過ごし方を決めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやお洒落ができるように支援している。愛用の化粧品などを切らした時は一緒に買い物に行き、補充できるように関わっている。また、訪問美容室でも利用者の希望に添うように髪を切ってもらっている。男性利用者に対しては、身だしなみとして髭剃りの支援を行っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のしたい気持ちを尊重し、食事が楽しみなものになるように、野菜を切ったり、皮をむいたり、コミュニケーションをとりながら、出来ることを共に行っている。食事も同じテーブルでとり、同じ食事を味わいながら、楽しい時間として過ごしている。配膳、片付けも共に行っている。	食材は宅配業者によりカロリー計算されたもので、利用者の嚥下能力に合わせて調理したり、嫌いな食品は代替品で対応しているほか、自家菜園で収穫した野菜を追加したり外食の機会を設け、食事を楽しむことができるよう支援している。 利用者は職員と一緒に野菜を刻んだり料理の味付け、テーブル拭き、茶碗拭きなどを行っている。 職員は利用者と一緒に同じ食事を摂り、会話をしながら楽しく食事ができるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や病気に合わせ、料理の味付けは薄めにしたり、糖尿病の方は、炭水化物は糖分を取りすぎないように注意したりしている。水分摂取不足にならないように、居室にボトルを用意しいつでも水分が飲めるようにして、水分摂取の声掛けや量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをし、うがい、ブラシ磨き、ポリデント使用などその人に合った準備、支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	支援の必要な利用者は、排泄をチェックし、排泄パターンを確認し、トイレの声掛けや立位の介助を行っている。夜間、トイレまで間に合わないことが増えた利用者には、居室にポータブルトイレを設置し使用してもらっている。今後排泄の失敗が増えるときは、その利用者の力や排泄パターンなどを把握し自立支援を行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間の場合もトイレ誘導やポータブルトイレ利用で、なるべくおむつを使わないよう支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足しないように配慮したり、野菜を多く摂取できる食事を提供したり、乳製品も定期的にとれるようにしている。どうしても便秘傾向になってしまう方には、医師と相談し内服薬を調整し個々にあった排便があるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきという入浴が習慣になっている。入浴が楽しめるように、入浴剤を変えたり、5月には菖蒲湯、冬至にはゆず湯を用意し季節が感じられるようにしている。利用者が入浴した事を満足できるように個々に応じた入浴を支援している。	風呂は毎日沸かし、利用者半数ずつ2日に1回入浴ができるよう支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えて声かけをするなど、工夫して入浴ができるよう支援をしている。 柚子や菖蒲などで季節感を味わったり、入浴剤で気持ちを和らげるなど、入浴が楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に応じて、休んだり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。夜間0時以降起きている時は、入眠を促し日中の活動の妨げにならないように声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬については、各職員は、目的、副作用、用法などを理解している。また、服薬ミスを起こさないよう、声だし確認、二重チェックを行なっている。服薬時は薬を手渡しし、口に入るまで確認している。薬の変更があった時は、様子の変化に注意して観察記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来ることが継続できるように、役割を持って生活して頂いている。(食器の片付け、拭き掃除、洗濯物干し、たたみ、配茶、配膳、箸配り、食事の号令など)又、レクリエーションとして製作、書道、トランプ、カルタ、オセロ、ビデオ鑑賞などが出来るよう準備したり、買い物、散歩などに誘ったり利用者の体調や気持ちに応じ支援している。3階の踊り場には利用者とは相談してプランターで季節の花を育て、水やりをしたり、成長を楽しみに見守っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者から積極的に、散歩や日光浴に出たいとの声は聞かれないため職員が働きかける場面が多い。日常的に散歩、買い物、ドライブにでかけたり、初詣や、桜の花見などの季節ごとの外出の支援を行っている。外食ツアーも今年中に実施を予定している。	天気の良い日は事業所周辺を散歩することが日課となっているほか、週2回の買い物時にも利用者を同行して外出の機会を増やしている。初詣や花見、レジャーランド、大仏見学などに車いす使用の利用者も一緒に外出し、四季の移り変わりを肌で感じたり気分転換ができるよう支援をしている。外に出たがらない利用者にはベランダにテーブルや椅子を用意してお茶飲みを誘うなど、少しでも外気に触れられるよう工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、小遣い程度のお金を所持して頂いている方が数名いる。自己管理出来る利用者は所持だけでなく買い物などの支払いが出来るよう支援している。基本的にお小遣いは職員室管理しているが、必要な時は用意できることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時はすぐ電話できるように対応している。手紙を頂いた時や、手紙が書きたいときはいつでも書けるように準備をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は清潔にし、適温で過ごせるように管理している。季節の花を飾ったり、作品や、行事ごとの写真を掲示したりしている。トイレは時間を決めて掃除をし気持ちよく使用できるよう心がけている。フロアの一角に観葉植物や、鉢植えの花なども置き、季節を感じられるようにしている。また水遣りなどをしてもらい、成長を楽しめるようにしている。	玄関や廊下、居間などの共用空間には利用者が製作した手芸品や工作物、季節の花などが飾られ生活感があり温もりのある空間となっている。居間の一角に移動式の畳スペースがあったりソファが設置され、利用者が好きな場所で寛げるよう工夫をしている。なすやきゅうり、かぼちゃ、じゃがいも、ゴーヤなどを栽培している自家菜園は、利用者と職員が作業や収穫などを共にする場となっており、五感を刺激したり季節の移り変わりを感ぜられる場所となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カウンターや、畳スペース、ソファー、テーブルなどがあり、利用者は好きな場所で過ごせるようになっている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状態や、入所前の習慣、希望に応じて、畳、フローリング、ベット、布団などを選び、馴染みのものを置いて居心地よく、安心して生活できるようにしている。仏壇に、毎朝ご飯を供えて手を合わせる利用者もいる。	居室にはエアコンや介護用ベッド、大型の造りつけダンスが備えられているほか、テレビやテーブル、家族の写真、手作りの品、ぬいぐるみ、仏壇など馴染みの物品が持ち込まれており、利用者が居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関には靴箱のとなりにベンチを設置し、利用者が安全に靴のはき替えが出来るようになった。廊下、トイレ、浴室などには手すりがある。トイレや居室は分かりやすいように、大きく名前を貼ったり、目印をつけて場所の混乱を起きにくくしている。ホールにも洗面台が取り付けられ手洗い、歯磨きもスムーズに行えるようになった。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目標達成計画

業所名 グループホームたんぽぽ

作成日 平成24年7月17日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	個人情報の取り扱いに留意するとともに、利用者や家族等に個人情報の利用目的を指示したうえで確認を得る	個人情報の管理、取り扱いを徹底する	・面会簿をノート形式からカード形式に変更する ・ファイルが保管されている職員室には外部の方は入室させない ・個人情報提供や、取り扱いについて利用者や、家族に書面で確認をする	8月下旬までに
2	33	重度化や終末期にたいしてのマニュアル、体制を整える	看護師を配置する	訪問看護ステーションとの契約	9月下旬までに
3	35	避難訓練の実施報告 災害時の協力体制の確立	避難訓練実施時の報告の徹底（年2回）	・年数回行う避難訓練のなかで夜間想定訓練は必ず行う ・近隣住民の参加、協力体制の確立	24年度
4	4	運営推進会議の活用、日程、参加者の調整	運営推進会議を有意義な会議にする	・参加者がマンネリ化にならないようその都度書面にて連絡をし確約をとる ・事業所の活動報告以外に施設行事の参加、講習会の呼びかけ、家族、地域の方々が興味を持てる内容を取り入れる	24年度
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。